

## 町田市議会・志政クラブ

# 吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属:志政クラブ

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2127



双方向の情報交流

## とこに行った町田市農業祭

町田中心街の大通りでは、「きらりキラリ☆まちだ祭」産業&農業フェスティバル～というものが毎年開催されています。大通りを解放して、市内外各地から集まったたくさんの踊りのチームが参加したお祭りです。町田市はこうした人が集まる行事が大好きで、さまざまの団体やグループに動員をかけ、それが「賑わい」だ、「それで産業や農業の発展になる」と称しています。しかしながら、売上増にはならず、出展者はこの事態を決して喜んではいません。本来、この祭りは「テクノフェア」、「太陽と緑のまつり」とそれぞれが独立して開催されていました。特に、農業祭は単独行事として、野津田公園で農家が戸別にそれぞれのテントを構え、多数のお店として出店していました。あくまで野菜の販売が主体の行事でしたが、今は街中の人集めの一環と替えられました。今の町田市役所は、人が集まれば物が売れるという時代遅れの商店街発展理論を信じていますが、行政認識を再考させたいと思っています。



以前の野津田公園の会場風景：町田市太陽と緑のまつり～農業祭～で撮影したものです。

## 地方を国と差別しない選挙の公報ピラ作成を求める

本年(平成25年)夏の参議院議員選挙に向けて、インターネットを使った選挙運動を解禁する公職選挙法を改正する動きが進んでいます。この選挙運動におけるインターネット解禁の法改正は、その後の国政選挙に限らず地方議員の選挙にも同様に適用されるものと考えています。政治家・議員の理念や政策、あるいは成果を国民・住民が正しく評価するために大きな前進となると思います。

ところで、現在まで衆議院・参議院選挙では候補者ピラを各々配布できましたが、都道府県会や市区町村議会の選挙では候補者ピラが配布できないことになっています。つまり、地方と国の議員では、選挙委運動の制限に大きな差別が存在してきました。

私はこうした差別をなくす主張を国に対して意見書としてまとめました。幸い、町田市議会ではこの提案に協力者があり、議案として提出すると全議員の賛同を得て、全会一致で可決しました。直ちに、この見解が国政に反映されるように行動したいと思っています。なお、以下はその文中の引用です。

わが国の隅々で地道な活動を日夜行なっている地方議員に対して、国会議員と格差なく正しい配慮があつてこそ、真の地方の時代が訪れることはいうまでもない。

よって、町田市議会は、地方と国が同等の時代に即した公平な地方自治が推進するため、地方議員選挙にも規定ピラの使用が認められるように、公職選挙法の文書図画の頒布規定に関する改正を強く求めるものである。

## ★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E 103-13 吉田つとむ (市議会議員)

# 町田市議会・志政クラブ

# 吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード  
でブログ閲覧



第 32 期研修生  
インターン生募集中

## インターン体験記 (第 6 回)

この文は、研修生の体験記の渉録です。

六回目の研修では、町田市の放射線量を測定等する有志の会のシンポジウムに参加しました。町田市の放射線量、とあっても、福島第一原発の現状の説明などがあり、町田市だけに留まらずに事故について考えさせられるシンポジウムでした。事故については、ニュースで知ることのできる程度の知識しかなかったのですが、より深く、そして町田市と絡めたより身近な問題として知ることができ、勉強になりました。また、実際に活動していらっしゃる方々の話を聞き、2年前の事故はまだまだ終わっていない、ということに改めて実感し、むしろほとんど状況が変わっていないことに危機感を覚えました。私を含め、普段の生活に戻って、福島を他人事のように感じている人も大勢いると思います。そうならないように、現状を知り、もっと知識を深めていきたいです。

記: 第 31 期研修生 林 泉 (いずみ)  
(東京大学教養学部 1 年生=新 2 年生)

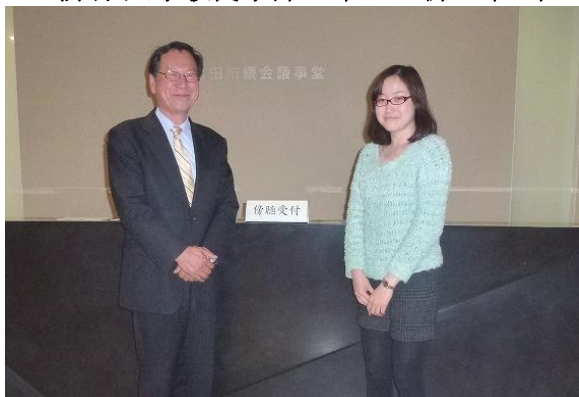
(以下の付記は、吉田 つとむのコメント)

2011.3. 11 福島原発事故の発生に伴う放射性物質の飛散によって、各地で農産物への汚染、高濃度放射線量のエリアの発生などの問題が起きました。それ以外の地域でもさまざまの汚染があり、それがどのように人体に影響するか、あるいはどれくらい後で影響が出てくるのか、現実には正確には分かっていません。私はとにかく測定を定期的に行い、そのリスクを軽減することを行政の役割として担わせることが、自分の役目と考えています。

## インターン体験記 (第 4 回)

町田市議会改革調査特別委員会を傍聴しました。そこでは、議員定数や議員報酬について話し合われるようでしたが、少し独特で、興味深い会議でした。会議が始まった後、数人が発言しただけでみな沈黙してしまったのですが、委員長が、休憩しましょうと言うと、議員のみなさんが、みな自由に話し始めたのです。結局 2 時間の会議は、付議事件のいくつかを取り下げ、その他は持ち帰りということで終わりました。会議の様子は私には少し奇妙に感じられたのですが、休憩中は会議室の中央に座っている速記士が手を動かしていないところを見ると、記録をされると自由に発言しづらい、ということでしょうか。委員長もそのことを分かっていらっしゃるようで、会議が滞ったところを見計らって休憩と宣言することでうまく会議を進めようとしていらっしゃいました。こういった会議の進行方法は独特で、インターンシップをしていなければ知ることはなかっただろうと考えると、勉強になった日でした。

第 31 期研修生 林 泉 (いずみ)  
(東京大学教養学部 1 年生=新 2 年生)



★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : [yoshidaben@gmail.com](mailto:yoshidaben@gmail.com) mobile: [yoshidaben@docomo.ne.jp](mailto:yoshidaben@docomo.ne.jp)